

R3-01 安全マップの活用と警察、教育委員会と連携した防犯教室の実施

- 管内 後志管内
- 分類 通学路の点検 防犯教室・防犯訓練 安全マップ
スクールガード・リーダー等の活用 その他（ ）
- 教育課程 教科（ ）科 道徳 総合的な学習の時間 特別活動
- 校種 小学校（低） 小学校（中） 小学校（高） 中学校 高等学校
- 取組のポイント

- 1 安全マップを活用した、地域の危険箇所についての共通理解
- 2 警察、教育委員会と連携した「子ども110番の家」への駆け込みを想定した、ロール・プレイングによる防犯教室の実施

取組の実際

ねらい

- 校区内の危険箇所について把握する。
- 校外における不審者から身を守る方法について学び、有事の際に自ら適切に判断して行動することができる。

内容

1 安全マップを活用した危険箇所の確認

年度当初に、安全マップを活用し、校区内の危険箇所について、観光客や車の出入りが多い地域を確認することで、児童の防犯意識を高めた。

2 不審者対応のロール・プレイング

警察署の資料に基づいて、教育委員会で作成した防犯に関するビデオを視聴し、「いかのおすし」等の避難行動について確認した。

その後、実際に不審者と遭遇した際に、子ども110番の家に避難することを想定した、ロール・プレイングによる防犯教室を行った。教育委員会職員が、通行人、不審者、子ども110番の家の住人の役割を演じ、児童は、不審者から適切に避難するとともに、避難先の住人に不審者の特徴や逃げた方向などの情報を伝える体験を行った。

体験後、警察署職員から児童の取組の様子を踏まえた助言とまとめの講話をいただいた。警察署職員から、「年齢がはっきり分からないときは、お父さんと同じくらい」のような伝え方もできるなどの具体的な助言があった。

児童が、自分の身を守るための適切な対応について考える取組を行ったことで、児童自らが判断し、危険を回避する行動をとろうとする態度を育成した。



【安全マップ】



【ビデオの視聴】



【ロール・プレイングの様子】

成果と課題

- 安全マップで危険箇所を確認することで、防犯意識を高めることができた。
- ロール・プレイングを通して、声を出して助けを求めたり、子ども110番の家に避難して不審者の服装を伝えたりするなど、実践的な防犯教室を行うことができた。
- 例年は実際に市街地に出て、子ども110番の家に避難する活動を行っていたが、感染症対策により、体育館での疑似体験とした。児童が実際の場面に即して行動し、防犯意識を高めることができるよう、取組の工夫改善を行う必要がある。